

令和8年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第2号（5月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年4月23日発表：沖縄气象台）

| 平均気温 | 降水量 | 日照時間 |
|------|-------|-------|
| 高い | ほぼ平年並 | ほぼ平年並 |

○5月の発生予報（沖縄群島）

| 作物 | 病害虫名 | 調査結果 | 予報 | | 予報の根拠 |
|---------|---------------------------------|-----------------|-------------|-----------------|--------------|
| | | 4月の発生量 (平年比) | 4月からの 増減 | 5月の発生量 (平年比) | |
| カンシヨ | ① イモキバガ | 並 | → | 並 | 平年の発生量の推移（→） |
| | ② | | | | |
| さととうきび | ① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（株出し） | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移（↗） |
| | ② | | | | |
| （温州みかん） | ① そうか病 | 並 | → | 並 | 平年の発生量の推移（→） |
| | ② アブラムシ類 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移（↗） |
| （タカンカン） | ① かいよう病 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移（↗） |
| | ② ミカンハモグリガ | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移（↗） |
| | ③ ハダニ類 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移（↗） |
| マンガ | ① ハダニ類 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移（↗） |

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○5月の発生予報つづき（沖縄群島）

| 作物 | 病害虫名 | | 調査結果 | 予報 | | 予報の根拠 |
|--------------|------|-------------|-----------------|-------------|-----------------|--------------|
| | | | 4月の発生量 (平年比) | 4月からの 増減 | 5月の発生量 (平年比) | |
| ピーマン (施設) | ① | うどんこ病 | やや多 | ↗ | やや多 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ② | ミナミキイロアザミウマ | やや多 | → | やや多 | 平年の発生量の推移(→) |
| | ③ | ヒラズハナアザミウマ | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ④ | タバココナジラミ | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| トマト (施設) | ① | 黄化葉巻病 | 並 | ↘ | 並 | 平年の発生量の推移(↘) |
| | ② | うどんこ病 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ③ | タバココナジラミ | やや多 | ↗ | やや多 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ④ | ハモグリバエ類 | 並 | ↘ | やや少 | 平年の発生量の推移(↘) |

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

| 作物 | 病害虫名 | 発生状況及び防除事項 |
|------|--------------|--|
| カンショ | トリバ類 | 幼虫が葉を食害する。発生初期の防除が有効であるので被害葉が出はじめたら、早期防除に努める。また、収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。 |
| かんきつ | カイガラムシ類 | 一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良、肥大阻害を引き起こすことで外観が損なわれ商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。 |
| マンゴー | 炭疽病・軸腐病・すす点病 | せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。 |

令和8年度 宮古群島 病害虫発生予報 第2号（5月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年4月23日発表：沖縄気象台）

| 平均気温 | 降水量 | 日照時間 |
|------|-------|-------|
| 高い | ほぼ平年並 | ほぼ平年並 |

○5月の発生予報（宮古群島）

| 作物 | 病害虫名 | 調査結果 | 予報 | | 予報の根拠 |
|----------|---------------------------------|-----------------|-------------|-----------------|--------------|
| | | 4月の発生量 (平年比) | 4月からの 増減 | 5月の発生量 (平年比) | |
| さとうきび | ① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（株出し） | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移（↗） |
| | | | | | |
| マンゴー | ① ハダニ類 | 並 | → | 並 | 平年の発生量の推移（→） |
| | | | | | |
| ニガウリ（施設） | ① うどんこ病 | やや多 | ↘ | やや多 | 平年の発生量の推移（↘） |
| | ② 斑点病 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移（↗） |
| | ③ ミナミキイロアザミウマ | 並 | ↘ | 並 | 平年の発生量の推移（↘） |
| | ④ タバココナジラミ | 並 | ↘ | 並 | 平年の発生量の推移（↘） |
| | ⑤ アブラムシ類 | 並 | ↘ | 並 | 平年の発生量の推移（↘） |

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○5月の発生予報つづき（宮古群島）

| 作物 | 病害虫名 | | 調査結果 | 予報 | | 予報の根拠 |
|---|------|---------------|-----------------|-------------|-----------------|--------------|
| | | | 4月の発生量 (平年比) | 4月からの 増減 | 5月の発生量 (平年比) | |
| とうが ん (施設 ・ 立 体 栽 培) | ① | うどんこ病 | やや多 | ↗ | やや多 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ② | ミナミキイロアザミウマ | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ③ | タバココナジラミ | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ④ | ハモグリバエ類 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ⑤ | ハダニ類 | 並 | ↘ | 並 | 平年の発生量の推移(↘) |
| オク ラ | ① | アブラムシ類 | 並 | ↘ | 並 | 平年の発生量の推移(↘) |
| | ② | フタテンミドリヒメヨコバイ | やや多 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

| 作物 | 病害虫名 | 発生状況及び防除事項 |
|-------|--------------|---|
| さとうきび | 黒穂病 | 複数のほ場で発生が確認された。 胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。 発病の多いほ場は早急に更新する。 |
| マンゴー | 炭疽病・軸腐病・すす点病 | せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。 |
| | チョウ目幼虫 | 一部施設でコシロモンドクガの発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。 |
| | カイガラムシ類 | 一部施設でコナカイガラムシ類、カタカイガラムシ類の発生がみられた。 カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。また、ハブラシ等で成幼虫こすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。 |

○その他注意すべき病害虫つづき（宮古群島）

| 作物 | 病害虫名 | 発生状況及び防除事項 |
|----------------------|----------|--|
| （ニ 施ガ 設ウ ）リ | 実腐病・黒かび病 | 実腐病は、うどんこ病の罹病葉などの衰弱した葉から朝露などを介して果実に感染する。黒かび病は罹病果実や花弁からの感染する。いずれも梅雨時期など高温多湿時の発生が多く、輸送中に果実腐敗を引き起こす。罹病果実を圃場外に除去するとともにうどんこ病の防除に努め、摘葉やハウス管理により日当たり・通風をよくする。 |
| オ ク ラ | カタツムリ類 | 複数のほ場で発生が確認された。葉を中心に茎、花蕾、果実も食害する。登録農薬のうちベイト剤は使用方法に留意し、作物にかからないようほ場周辺に処理する。茎葉に移動したカタツムリ類は捕殺に努める。 |



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

令和8年度 八重山群島 病害虫発生予報 第2号（5月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年4月23日発表：沖縄气象台）

| | | |
|------|-------|-------|
| 平均気温 | 降水量 | 日照時間 |
| 高い | ほぼ平年並 | ほぼ平年並 |

○5月の発生予報（八重山群島）

| 作物 | 病害虫名 | 調査結果 | 予報 | | 予報の根拠 |
|------------|---------------------------------|-----------------|-------------|-----------------|--------------|
| | | 4月の発生量 (平年比) | 4月からの 増減 | 5月の発生量 (平年比) | |
| 水稲 (1期) | ① 葉いもち病 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ② 斑点米カメムシ類 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ③ スクミリングガイ | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| さとうきび | ① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)(株出し) | 並 | → | 並 | 平年の発生量の推移(→) |
| マンゴー | ① ハダニ類 | 多 | ↗ | 多 | 平年の発生量の推移(↗) |
| オクラ | ① うどんこ病 | 並 | ↘ | やや少 | 平年の発生量の推移(↘) |
| | ② アブラムシ類 | 並 | → | 並 | 平年の発生量の推移(→) |
| | ③ フタテンミドリヒメヨコバイ | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |
| | ④ チョウ目幼虫 | 並 | ↗ | 並 | 平年の発生量の推移(↗) |

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

| 作物 | 病害虫名 | 発生状況及び防除事項 |
|-------|--------------|---|
| さとうきび | カンシャワタアブラムシ | 一部ほ場で発生が確認された。多発するとすす病を併発し生育を阻害するので、葉裏を確認して初期防除を徹底する。 |
| マンゴー | 炭疽病・軸腐病・すす点病 | せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。 |
| | チョウ目幼虫 | 一部施設で新葉にナカジロフサヤガ、コシロモンドクガの発生が見られた。施設内を見回り不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。 |
| | マンゴーハフクレタマバエ | 一部施設で新葉にマンゴーハフクレタマバエの被害が見られた。本種は繁殖スピードが速く、また幼虫の脱出痕から炭疽病等に感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。 |
| | カイガラムシ類 | 一部施設でコナカイガラムシ類の発生が見られた。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。 |
| オクラ | カタツムリ類 | 複数のほ場で発生が確認された。葉を中心に茎、花蕾、果実も食害する。登録農薬のうちベイト剤は使用方法に留意し、作物にかからないようほ場周辺に処理する。茎葉に移動したカタツムリ類は捕殺に努める。 |